

国際化学肥料ニュース (2016年7月)

肥料業界の2016年7月動態

- * 7月7日、インド IPL 社が尿素購入入札を公表した。これは今年インド 3 回目の尿素入札で、締め切りは7月15日である。今までと異なるところは、今回の購買数量 42 万トン、輸入港なども指定する。その理由とはインドの尿素在庫が多く、需要不振もあり、尿素輸入の切迫性がないが、安い価格で一定の輸入数量を確保したいと推測される。昨年下半年から尿素の世界市場価格が下がり続ける状況では、インドの4月の1回目入札では最低応札価格 CFR226 ドル/トン、5月の2回目入札では最低応札価格 CFR216 ドル/トン、今回では応札価格が CFR195 ドル/トンまで下がるだろうと推測される。また、応札はイランやカタールの中東勢の可能性が高い。

- * 7月15日開札したインド IPL 社の尿素入札は、22社が応札し、応札数量 169 万トンである。その中にイラン産尿素的の応札価格が一番安く、指定された7ヶ所中の6ヶ所の港に応札し、CFR 価格が 179.95~181.40 ドル/トンで、総数量 30 万トンである。この価格は5月に行ったインドの2回目の尿素応札価格より 35 ドル/トンも下がった。
その後の交渉で、インド側は応札中のイラン産尿素 30 万トンを CFR180 ドル/トンの価格で契約しただけである。その影響を受け、7月末から中東とロシア産尿素的の FOB 価格が 180 ドル/トンまでに下がった。

- * 7月14日、中国とベラルーシ BPC 社との間に 2016 年塩化加里輸入基本契約を締結した。CFR 価格 219 ドル/トン、数量未定。先月27日インドは BPC 社との間に 2016 ~2017 年塩化加里輸入基本契約を結び、その CFR 価格 227 ドル/トンで、今回中国側の価格はインドよりトンあたり 8 ドル安くなる。これから数週間内、ほかの加里メーカーもこの価格で中国側と基本契約を結ぶだろう。

- * ロシアからの報道によれば、中国とベラルーシ BPC 社との間に 2016 年塩化加里輸入基本契約では、輸出数量 130 万トンと決めた模様。

- * イスラエル ICL 社は中国側と塩化加里輸入基本契約を締結した。その内容は 2016 年1月~2018 年12月までの3年間に 2016 年 110 万トン、2017 年 114 万トン、2018 年 116 万トン塩化加里を中国に輸出して、2016 年の CFR 価格はベラルーシ BPC 社と同じ 219 ドル/トンで、2017 と 2018 年の価格はその都度協議する。

- * 6月27日インドとBPC社との間に2016～2017年塩化加里輸入基本契約を締結したことを受け、イスラエルICL社もインド側と同じ条件で塩化加里輸入基本契約を締結した。ただし、ロシアとカナダ側はその価格に不満があり、契約締結に難色を示している。
インドの塩化加里輸入基本契約の締結を受け、アジアでは塩化加里のスポットCFR価格が220～265ドル/トンに安定している。
- * 7月29日、カナダCanpotexがインドと2016～2017年度の塩化加里輸入基本契約を締結した。これにより、すべての国際大手加里メーカーがCFR価格227ドル/トンの条件を受け入れ、インド側と契約済みである。
- * カナダ税関の統計データによれば、カナダ産塩化加里の輸出量が急減した。需要期の5月輸出量が前年同期より27%減の120万トン、1～5月輸出量が22%減の290万トンしかなかった。特にアメリカ向けの輸出量が大きく減少した。
- * 中国税関の統計データによれば、6月中国の化学肥料（塩安、硝酸加里、動植物系有機肥料を除く）輸出量が222万トン、金額5.83億ドル。1～6月の上半期化学肥料輸出量が24.6%減の1199万トン、輸出金額が39.8%減の29.93億ドルであった。塩安、硝酸加里と動植物系有機肥料を含む肥料全体の輸出量が24.6%減の1257万トン、その内訳は尿素25.3%減の504万トン、DAP26.1%減の209万トンである。輸出減の原因は世界的な肥料需要不振と価格競争力の低下である。
一方、2016年1～6月の上半期化学肥料輸入量が8%減の426万トン、輸入金額が17.8%減の13.64億ドルであった。主な輸入化学肥料は塩化加里と高度化成肥料で、その内訳は塩化加里11.2%減の337万トン、NPK高度化成肥料3.7%減の65万トンである。
- * インドIFFCO（インド農民肥料組合）とモロッコのOCP社が今年下半期のりん安原料用の粗りん酸の輸入基本契約を締結した。具体数量と価格が公開されないが、純P2O5換算でCFR価格605ドル/トンだろうと推測される。昨年同期に比べて、110～115ドル/トンの値下げとなる。
- * 7月13日中国窒素肥料工業協会は山東省青島市に窒素肥料大手メーカーと主要貿易商を集めて「2016年窒素肥料輸出検討会」を開催した。その内容は、
 1. 2016年1～5月の窒素肥料生産量が0.3%減、尿素生産量が2.7%減の2928.1万トンで、史上初めての減少である。
 2. 化学肥料販売不振で、5月末メーカー在庫が昨年同期より65%増加した。

3. 2016年1～5月の窒素肥料業界全体赤字額が39.9億人民元（約5.96億ドル）に達した。

4. 2016年上半期の窒素肥料輸出量が大幅減少し、輸出価格も大きく下落した。下半期の改善も期待できない。

会議に於いて窒素肥料業界が下半期も厳しい状況が依然存在し、楽観視できないという共通な認識が確認された。難局を打開するため、業界内の対策と政府に対する提案を纏めた。

1. 政府に対して輸出競争力を維持するために化学肥料の輸出関税の撤廃を強く要請する。
2. 老朽化した不採算窒素肥料生産設備の廃棄と経営不振企業の退陣を加速させる。政府関係機関にそのための指導と金銭支援を要請する。
3. 企業は積極的に輸出コストを削減する一方、輸出主体の養成と国際市場の開拓に努める。
4. 輸出がWTOのルールに守って、不当廉売を絶対させない。また、出荷価格が生産コストより低い場合はメーカーが積極的に減産、生産停止などをして、悪質的な競争を避ける。

* 2016年全世界で新たに1030万トンの尿素生産能力が増加する見込み。上半期にすでに300～400万トンが完成し、稼働し始めた。今年稼働する主な新設の尿素工場は下記の通りである。

1. アルジェリア AOA の第2生産ライン、生産能力120万トン、完成済み
2. アメリカ Koch Nitrogen 工場、生産能力100万トン、完成済み
3. ナイジェリア Indorama Eleme の Port Harcourt 工場、生産能力130万トン、完成済み
4. イラン NPC の Pardis 尿素工場第3生産ライン、生産能力100万トン、完成済み
5. アメリカ IFFCO 生産能力40万トン（尿素硝安液肥から純尿素に換算）、年内完成予定
6. アメリカ CF の Port Neal 工場増設プラント、生産能力120万トン、年内完成予定
7. インド Matix fertilizers の Panagarh 工場、生産能力130万トン、年内完成予定
8. マレーシア Petronas の Samur 工場、生産能力120万トン、年内完成予定
9. アメリカ Agrium、生産能力60万トン、年内完成予定
10. インドネシア Pusri の Palembang 工場第2生産ライン、生産能力90万トン、年内完成予定

すでに世界の尿素生産能力が完全過剰となって、新工場の稼働により状態がさらに悪化し、尿素の国際市場価格が低迷し続けるだろう。

大手各社の営業業績

- * サウジアラビア Ma'aden 社が第 2 四半期の業績を公表した。売上高 6.8 億ドル、純利益が 51%減の 3532 万ドルであった。今年上半期の純利益が 43%減の 8037 万ドル。業績悪化の原因はアンモニア、DAP とアルミニウムの輸出価格の急激な下落である。
第 2 四半期の肥料部門業績は、りん安 (DAP と MAP) 生産量が 2%増の 66.9 万トン、販売量が 18%増の 70.5 万トン、アンモニア生産量が 30 万トンであったが、販売したのは 15.4 万トンしかなかった。Wa'ad Al Shamal りん酸塩プロジェクトの進捗が順調で、アンモニアプラントがすでに完成し、試運転に入った。全体は計画通り 2016 年第 4 四半期に完成する予定である。
- * ブラジル Vale 社は第 2 四半期の業績を公表した。肥料部門では、アンモニア生産量が 26%減の 6.6 万トン、硝酸生産量が 9%増の 26.3 万トン、りん鉱石採掘量が 15%減の 180 万トン、MAP 生産量が 18%減の 23.5 万トン、重過りん酸石灰生産量が 2.5%増の 24.6 万トン、過りん酸石灰生産量が 3.4%減の 45.4 万トン、加里肥料生産量が 9.8%減の 10.1 万トンである。肥料全体では振るわなかった。
- * ロシアの化成肥料メーカーacron 社は 2016 年第 1 四半期の業績を公表した。肥料生産量が 1%減の 159 万トン、販売量が逆に 7%増の 163 万トン、売上高 276 億ルーブル (約 3.7 億ドル)、粗利益が 79%増の 127 億ルーブル (約 1.7 億ドル)。また、平均輸出価格 (FOB 価格) は 16-16-16 高度化成 326 ドル/トン、硝安 186 ドル/トン、UAN (尿素硝安溶液肥料) 152 ドル/トン、尿素 194 ドル/トンであった。
- * アメリカ Mosaic 社は第 2 四半期の業績を公表した。売上高が 32%減の 17 億ドル、その内訳はりん酸肥料部門が 30.3%減の 9.76 億ドル、加里肥料部門が 37.4%減の 4.57 億ドル、国際部門が 16.2%減の 5.34 億ドル。売上減の主な理由はりん酸肥料と加里肥料の販売数量減と販売価格の下落である。第 2 四半期の純利益は前年度同期の 3.906 億ドルの黒字から一気に 1020 万ドルの赤字に転落した。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * モロッコ OCP 社がナイジェリアにりん酸肥料工場の建設が許可された。7 月 15 日モロッコ外務大臣 Nasser Bourita 氏がナイジェリア大統領との会談で本件協力案件のことが確認された。但し、工場建設地、着工時期、生産能力、投資額など公開されていない。
ナイジェリアは国内の化学肥料産業が貧弱で、特にりん酸肥料が全く生産されていない。毎年モロッコ OCP 社から化成肥料を大量輸入している。本件りん酸肥料工場の建設により国内りん酸肥料の需要が満たされることになる。

- * ベトナムからの報道によれば、韓国 Huchems 社がベトナムの会社と合併で韓国-ベトナム化学肥料 (Korea Vietnam Fertilizer Co. Ltd.) を設立し、ホーチミン市に年間生産能力 36 万トンの化成肥料工場を建設する。2017 年 9 月完成する予定である。当該工場が稼働すれば、ベトナム化成肥料総生産能力の 9%を占める。

その他

- * 7 月 6 日、ロシアの EuroChem 社はブラジルの肥料小売商 Fertilizantes Tocantins 社の 51%株式を取得すると発表した。当該買収行動がブラジル政府部門の審査を受ける必要があり、年内に審査結果が判明される。

Fertilizantes Tocantins 社は 2003 年設立、ブラジル北部と中西部の農業地域に肥料販売網を構築している。2009 年から 7 年連続売上高が 2 ケタ増の成長を達成し、2015 年の肥料販売量が 74 万トンであった。

- * 7 月 13 日、アメリカの Mosaic 社はカナダ Saskatchewan 州にある Colonsay 加里鉦山の生産を停止すると発表した。稼働停止の理由は世界の加里肥料需要不足で、価格が低迷して採算が取れないためである。Colonsay 加里鉦山の生産能力は 260 万トン/年で、従業員約 360 名である。従業員の中で約 30 名が管理要員として残され、330 名が一時解雇される。当該加里鉦山が 2017 年 1 月に稼働再開と予定されるが、その時の加里肥料の市況により延期されることもあり得る。

Mosaic 社はカナダ Saskatchewan 州に Esterhazy 加里鉦山と Bell Plaine 加里鉦山も所有している。Colonsay 加里鉦山の稼働停止期間中に、生産コストの低い Esterhazy 加里鉦山と Bell Plaine 加里鉦山の生産を維持して、塩化加里の供給責任を果たすという。

- * 毎年 7 月下旬、中国政府は翌年の関税を調整するために産業界と地方から関税に関する意見を聴取する。今年も肥料の輸出関税について中国窒素肥料工業協会とりん酸肥料・化成肥料工業協会が会員企業に意見を聞いたところ、ほとんどの企業が輸出による国内生産能力の過剰を緩和して、国際市場での価格競争力を強化するために化学肥料の輸出関税を撤廃することを希望する結果が出た。2016 年現在は、尿素 80 人民元/トン、りん安 100 人民元/トン、加里肥料 600 人民元/トン、NP 化成肥料 5%、NPK 化成肥料 30%の輸出関税が徴収されている。
- * 中国政府は 7 月 23 日付の石油化学産業に対する「指導意見」に於いて、過剰の生産能力を解消するため、これから尿素、りん安、黄燐などの新規工場と生産ラインの建設を原則的に認めない方針を表明した。